

1/50

井川
いずみ
作

登場人物..

榎田 萌（まきた もえ） 二十代女性 亜紀を担当していた看護師。

川瀬 亜紀（かわせ あき） 二十代女性 妊娠していた子を亡くす。

枘野 真紀子（ますの まきこ） 四十代女性 主任看護師、榎田の上司。

伊達 實（だて みのる） 三十代男性 産婦人科医。

菅 加奈子（すが かなこ） 二十代女性 墮胎手術を望んでいる患者。

川瀬 大地（かわせ だいち） 三十代男性 亜紀の夫。

さくら

舞台..

とある地方都市の総合病院の近くの、公園。
また時として、亜紀が住むマンションの一室であったり、
診察室であったりする。
季節は、桜咲く前後の春。

あらすじ..

生まれた子供が死んでいた：初めての妊娠が、悲しみとなって、
その悲しみすら、口にできない亜紀。
夫の大地は忙しく、今日も仕事に励んでいる。
姑は必要以上に孫を求めている。
周りの人々は普通に言葉で、亜紀を傷つけていく。
看護師の横田だけは、亜紀に同情を寄せる。
が、亜紀の心は孤独を求め、幻想に追いつめられる。
その時、会うはずのないあの子がやってきた。
これは、生まれても産声をあげなかった子とその周りにいた人々の物語。

参考図書..

・「産声のない天使たち」 深澤 友紀 著 / 朝日新聞出版

・「いのちを産む」 大野 明子 文・構成 / 宮崎 雅子 写真

トークセッション 龍村 仁・宮崎雅子・大野明子
/ 学習研究社

・第七十一回日本産婦人科医記者懇談会
平成二十五年十二月十一日@日本記者クラブ

「産婦人科危機再び!? 産婦人科の動向と勤務医就労環境」
/ 日本産婦人科医勤務医部会 日本医科大学 中井 章人 関口 敦子

スペシャルサンクス..

すかいさん

プロローグ（前説）

榎田萌（以後、榎田）、現れる。

榎田

みなさん、本日はお越し頂きまして、ありがとうございます。
私は、この朝日山総合病院の産婦人科医で看護師を勤めている、榎田萌です。
ここは病院ですから、携帯電話の電源はお切りください。
また、おしゃべりや騒がしいことなどは入院されている方のご迷惑になりますので、お控えください。
でも飲み物は飲んで頂いて結構ですし、飴やチョコもわからないように口にして頂いたら…バリバリ音はなしでお願いします。
みなさんは何を思って仕事をしていますか？
私は赤ちゃんが好きで、赤ちゃんに関わりたくて、この仕事を選びました。
…仕事って、自分の思った通りに行かないもんなんですね…
「死産」ってご存じですか？
妊娠十二週目以降に亡くなって生まれてくる子、産まれても一週間以内に亡くなってしまふ子が当てはまります。知識では知っていました。でも…

一場

葛藤

病院の近くの公園のベンチ。

榎野真紀子（以後、榎野）、現れる。

榎野の手には、パンの入ったビニール袋。

榎野

あー、疲れたー

榎田

…

榎野

今日も長かったもんね

榎田

…

榎野

榎田、さては、もう行きたくなかったか（ビールを飲む仕草）

榎田

…榎野さん、さっきの

榎野

さっきって？

榎田

予定より早く破水して

榎野

ああ、立花さんね

榎田

ああって…

榎野

大丈夫、大丈夫よ

榎田

そんながるがるしく

榎野

完全破水じゃなかったし。それに、もう三人産んでるし

榎田　でも
榎野　もう落ち着いたんだし、問題ないって
榎田　問題ないって
榎野　私たちが診てるのは一人じゃないの
榎田　厳しすぎます
榎野　そうお
榎田　何であんな事を
榎野　当然でしょ、子供がお腹にいるの
榎田　でもそれは
榎野　働くことは大事なことだけど、それで何かあったら、どうするの
榎田　立花さん、仕事の量は減らしてもらったと
榎野　どっちが大事なのよ
榎田　……
榎野　下手したら、流産してた
榎田　……それでも患者さんを攻撃するのは違うと思います
榎野　何言ってるんの、医療者として当然のことを言ったままで
榎田　そんな無茶苦茶な
榎野　あんた、バカ？
榎田　！
榎野　間違ってることは言わなきゃ
榎田　……
榎野　子どもを守れない母親なんて、最低でしょ。母親は一生なの。
榎田　一生子どもと付き合っていくの。その間、子どもの事を優先して、
榎野　大事にする気持ちがなきゃ
榎田　……
榎野　それが親になるってことよ
榎田　榎野さん
榎野　何よ
榎田　親になるって、出会うことだと思うんです
榎野　……
榎田　親って、子どもが産まれて初めて親になれる
榎野　……
榎田　子どもと出会って、一緒に育っていくんじゃないかな
榎野　……
榎田　だから、わからない事もあって
榎野　その子と出会えなかったら？
榎田　！
榎野　いい加減なこと言って、励まして、もしそうになったら？
榎田　あんた責任取れんの？
榎野　それは……
榎田　それを防ぐのが私たちの仕事なのよ
榎野　……
榎野　リスクは排除する

枡野 だろうね

枡野 ただ

枡野 ただ？

枡野 私たち、もっと変わりませんか？患者さんの為に

枡野 ……

枡野 そうすれば

枡野 わかってない

枡野 ？

枡野。あたし達はサービス業じゃないのよ

枡野 それはわかってます

枡野 わかってない！…はい、スマイルくださーい

枡野 茶化さないでください

枡野 ……

枡野 ？

枡野。あなた、この頃変だよ

枡野 別に何も

枡野 何かあった？彼氏、とか？

枡野 いいえ

枡野 こんな仕事してたら、プライベートなんて捨てなきゃね

枡野 枡野さん

枡野 ……あー、自分で言っていて、切ないわ

枡野 ちゃんと聞いてください

枡野 ……

枡野 冗談が通じない

枡野 覚えていますか？一週間前のこと

枡野 一週間前？あー、忙しすぎて、覚えてらんない

枡野 ……

枡野 (ため息) もう帰って寝たいの。休める時には休まないとね

枡野 ……

枡野 どれだけ執着してるのよ

枡野 お腹の中で赤ちゃんが

枡野 あー、あれか…あんなの気にしてんの？

枡野 ……

枡野 ……いい。お腹の中で子どもが死んでしまうことなんて珍しい事じゃない

枡野 珍しい事とかじゃなくて

枡野 確率で五十分の一

枡野 ……知ってます

枡野。あんたさー、今回が初めてっただけでしょ？この先、この仕事続けてる限り

枡野 必ず向き合うことになる

枡野 ……

枡野 ……いちいち感情的になっただうするの？

枡野 ……

枡野 ……

柘野 もう、パン食べちゃったじゃない。これから帰って寝るのに……

柘野 さつきから

柘野 初産だったんですよ、川瀬さん！

柘野 それが？

柘野 初めてって、不安も大きいじゃないですか

柘野 あれは仕方ないことなの

柘野 だとしたら、どうして!?

柘野 ?

柘野 聞こえてましたよ、会話

柘野 ああ：あれね：ってか、聞いてたの？

柘野 赤ちゃんを亡くした患者さんに「今回はご縁がなかっただけ」って酷いです：

柘野 そうお？

柘野 ご縁があるとかないとか、そういう問題じゃなくって

柘野 でも、本当の事でしょ

柘野 悲しんでる人に言う言葉ですか

柘野 産めたら良かったのになって、だれにでも思うもんでしょ？

柘野 柘野さん

柘野 もしかして悲しんでなかったかもよ

柘野 !? 何言ってるんですか

柘野 人間なんて嘘つきだからね。心の底では何思ってるか：

柘野 ! 本気で言ってるんですか？

柘野 ……シヨックは受けてた、か

柘野 だったら何で

柘野 何よ、今更

柘野 急に何ですか：

柘野 今更グチグチ言うんじゃないわよ！言うことがあったら、その場で言いなさい

柘野 ……いい迷惑よ

柘野 何言ってるんですか

柘野 それに、あの人が辛気臭い顔して病棟歩いてたら、こっちがたまったもんじゃない

柘野 それ本気ですか？

柘野 他の患者さんたちがそれ見て、心配でもしたら、また面倒な事になるでし

柘野 本気で言ってるんですか

柘野 ……

柘野 私たち、人を相手にしてるんですよ

柘野 ……

柘野 技術とかそれだけじゃなくて、言葉がけでも

柘野 言葉がけで時間が戻るんだったら、そうしてる

柘野 ?

柘野 でも時間は戻らないの

柘野 ……

柘野 いいじゃない、あの人の子宮はあるの、次があるの

柘野 そんなの

柘野 失った今じゃなく、未来があるこれからを考える方が建設的でしょ
榎田 そうじゃなくって

柘野 何、良い子ぶってるの

榎田 わからないんですか

柘野 時間は戻らないの

榎田 見損ないました…

…

柘野 さんのやり方は間違ってます

榎田。もつと大人になりなさい

大人って何ですか？

…

心を無くすのが大人なんですか？

私たちは仕事をしに来てるんだから。家族じゃない

…

心のケアは他人のあたしより家族がするべきよ

…

それでこそその家族でしょ

でも！

いーい？あたし達は仕事でやってんの、これで生きてるの。変な情かけて

こっちによっかかられでもしたら、どうすんの？

…

割り切るのよ。淡々とこなさないと…第一人手不足なんだから

…私は嫌です

…

出産に向きある患者さんや赤ちゃんの手助けがしたくって、

この仕事に就いたんです！

甘い

甘くていいです！

精々、青臭いこと言ってなさい…ここもなくなるかもよ

え

こんな田舎、誰も住みやしないわよ。

若い子はどんどん都会に出て行って、いるのは年寄りばかり

でも産婦人科は必要で

自分の時間持てないもの、なり手が無いのよ。働いててわかるでしょ？

患者さんや赤ちゃんはいつ何が起こるか分からない

それでも

今は伊達先生がいまだいてくれるからいいけど、任期が終わったら離れるかもしれ

ない

！

先のことなんて誰にもわからない

そんな…

医療はサービスじゃないの。ふんぞり返る患者がいるから疲弊してんの、病院も、

あたし達も…自業自得よ

榎田 ……
榎野 あたし達は自分の仕事を全うしてればいいの、余計なことは考えない、ね
榎田 ……
榎野 (あくび) ……最近、夜勤がキツイわー…じゃ、榎田。今日はこれにて解散

榎野、去る。

榎田 ……私は

二場一章 あの日と、今と

一週間前の診察室。

伊達實(以後、伊達)、川瀬亜紀(以後、亜紀)が向かい合わせに座っている。
亜紀の後ろには、榎田がいる。

伊達 川瀬さん
亜紀 はい
伊達 少し言いくいのですが…実はお話したいことがありまして
亜紀 はい
伊達 連絡したい方はいらっしゃいますか？
伊達 ……主人が来てくれると思います、ここに来る前に連絡したので
伊達 そうですか…じゃ、到着されたら、こちらにお連れして
榎田 わかりました

榎田、去る。

亜紀 先生
伊達 はい
亜紀 お腹の子は大丈夫でしょうか？
伊達 ……
伊達 昨日の夜、お腹の中の子がすごく動いたんです
伊達 ええ
亜紀 でも、それからぱったり何もしなくなつて…ネットで調べて

伊達 インターネットの情報が全て正しいという訳ではないんです。
伊達 不安があれば、今回のように受信して頂く方がいいと思います
亜紀 そうですよね…

伊達 ……
亜紀 私、楽しみなんです
伊達 ?

亜紀 もうすぐ、もうすぐこの子が産まれてくるかと思うと…
伊達 ……川瀬さん

亜紀 はい
伊達 申し訳ありません
亜紀 はい？

伊達 これからお話しすることは、お辛い事だと思えます
亜紀 ?

伊達 妊娠しても必ず順調に経過を辿る訳ではないんです
亜紀 先生…

伊達 ……
亜紀 あの

伊達 やはり、ご主人が来てからお話ししましょう
亜紀 どうしてですか

伊達 ……
亜紀 ……そんなに、悪い所があるんですか？

伊達 川瀬さん
亜紀 私、…この子がどんな状態であろうとも、産みますから

伊達 ……
亜紀 ……産みますから、母として

伊達 ……
亜紀 ……そうじゃなきゃ、ここにいません

間

伊達 わかりました

伊達 ……
亜紀 ……では、ご主人を待たず、話そうと思います。

伊達 川瀬さん。気を落とさないで聞いてください
亜紀 ……はい

伊達 五十分の一
亜紀 五十分の一？

伊達 産声を上げない赤ちゃんの確率です
亜紀 産声を上げない？…障害のある子が産まれるんですか？

伊達 いいえ。障害、例えば、ダウン症の赤ちゃんが生まれる確率は川瀬さんと同じ
伊達 二十代の方だと一七〇〇分の一と言われてます

亜紀 ……私の方が確立が高い…
伊達 そうなんです
亜紀 本当に悪い所が…
伊達 産婦人科としては珍しい事ではありません
…
伊達 しかし、一般的には広く知られていない事実です
亜紀 先生、…わかるように言ってください、五十分の一つで何ですか？
伊達 少し落ち着いてください
…
伊達 率直にお答えしますね
亜紀 はい
伊達 川瀬さんのお子さん、お腹の中で亡くなっています
え
伊達 お話をお聞きして…昨晚。動きがあった時、何かあったんでしようね
…
伊達 ……推測でしかないんですが、ここに来られた時にはもう…
亜紀 あの。それ、…どういう意味ですか？
伊達 すでに亡くなっているんです
でも、
伊達 先程、エコーで見させてもらいましたが、心臓が動いてないんです
亜紀 この前の検診の時は順調に育ってるって、それにもう二十二週目を
過ぎたからって…
伊達 川瀬さん、前回は流産の可能性が低くなつたとは言いました
そんな
伊達 ですが。…今回の事はどうしようもないんです
…
伊達 川瀬さん
…
伊達 川瀬さん
！
伊達 大丈夫ですか？
亜紀 はい…
伊達 これからの事を考えましょう
何を？？
伊達 そのままにしておけないんです
…この子？
亡くなってる訳ですから、体外に取り出さないと
取り出す…
伊達 これからお話するのは、その処置についてです
…手術するんですか？
伊達 いえ。帝王切開ではなく、普通分娩で行おうと考えています
…この子を…産むんですか…？
伊達 はい、それが一般的な方法です。次の妊娠の事を考えると負担が少なく、

効率的です
次、効率的って

伊達 驚かれるのは無理ありませんが、これがベストなんです

亜紀 ……

伊達 川瀬さんはまだ子宮口が出産段階にないので、棒状の医療器具で一日かけて、赤ちゃんを取り出せるように開きます。翌日に陣痛促進剤を投与して、普通の出産通りの流れで分娩、体内の赤ちゃんを取り出します

亜紀 ……

伊達 陣痛がどれ位で始まるかは個人差があつて、

亜紀 陣痛が…あるんですか？

伊達 ええ

亜紀 亡くなった子を産むのに…痛みを伴うんですか

伊達 はい

亜紀 麻酔は使えないんですか？

伊達 病院によつては使えますが、うちでは…すみません

亜紀 ……

伊達 今回は残念な結果になってしまいましたか？

亜紀 そんな…

伊達 先生、ご家族の方がいらつしゃいました

枡野（声）

枡野、現れる。

伊達 わかりました

枡野 お連れします

亜紀 ……

枡野 大丈夫ですよ、川瀬さん

亜紀 ……

枡野 今回のことは残念な結果になりましたけど…

亜紀 ……

枡野 川瀬さんはまだ若いし、元気に産めますよ

亜紀 ……

枡野 他に悪い所もないですし

亜紀 ……

枡野 今回はご縁がなかっただけですって、だから大丈夫ですよ

亜紀 ……

枡野 では、お連れしますね

枡野、去る

伊達 川瀬さん、初産でしたよね

亜紀 ……
伊達 ……次への予行練習と考えてもらえば
亜紀 ……この子は私にとって、…大事な子どもなんです
伊達 辛いお気持ちはわかります
……
伊達 だから、前へ進みましょう。人生で起こることはすべて意味があるんです
亜紀 ……
伊達 ……
伊達 今回も、その一つと考えて

川瀬大地（以後、大地）、杵野、現れる。

杵野 先生、お連れしました
伊達 ありがとうございます
大地 川瀬です。妻がいつもお世話になってます
伊達 初めまして。主治医の伊達です
大地 先生、
伊達 今、これからの事について話していたところです
大地 それでどうなんですか？
亜紀 大ちゃん…
大地 亜紀？
……
大地 遅れて来て、すまない
亜紀 ……大ちゃん…
大地 大丈夫か？
亜紀 ごめん
伊達 話をしてよろしいですか？
大地 お願います
伊達 奥様にはお話しさせて頂いたんですが
亜紀 大ちゃん…
大地 大丈夫だから

大地、亜紀の手を取る。

二場二章 正しき

五日後。

午後の院内。

大地、亜紀去る。

枡野、二人の見送っている。
榎田、現れる。

榎田 川瀬さんは？
枡野 今、退院されたよ
榎田 あー、
枡野 ちよつとどこ行くの
榎田 川瀬さんの所に
枡野 何しに？
榎田 これを（メモを出す）
枡野 やめなさい
榎田 え、でも
枡野 赤ちゃんを亡くされたご家族の会でしょ
榎田 ええ
枡野 放っておきなさい
榎田 枡野さん、これも私たちができる支援じゃないんですか
枡野 本人の事は、本人が決める
榎田 でも
枡野 さ、行くよ

枡野、去る。

榎田 ……

伊達、現れる。

伊達 榎田さん、川瀬さんはもう行かれた？
榎田 みたいです
伊達 ……そうか
榎田 ……大丈夫かな、川瀬さん
伊達 ……。僕はできることはやったんだ。あれは仕方ないよ
榎田 頭ではわかっているですけど…
伊達 どっちも正しいよ
榎田 ……
伊達 でも、正しさを振りかざしてるだけじゃ、何もできない
榎田 ……
伊達 お互い、もっと話さなくっちゃ
榎田 ……
伊達 僕はあまり好きじゃないけどね

槇田 先生はいなくなるから…

伊達 え

槇田 いえ、何でも

伊達 ? こんな所で油売ってたら怒られるよ

伊達、去る。

槇田 伊達先生!

伊達 ?

槇田 産婦人科って、未来はあるんですか?

伊達 何、急に?

槇田 あ…その…

伊達 ?

槇田 ……

伊達 難しいことは僕にはわからない。ただ、産婦人科医という仕事に魅力を感じてる。やりがいもある。けど、生活を考えると、ね

槇田 先生、…辞めないですよ

伊達 槇田さんは嫌になった、この仕事?

槇田 いえ、そういう訳じゃ…わかんない、わかんなくなってます

伊達 じゃ、悩んでいればいいよ

槇田 え

伊達 悩んで、悩んで、答え、見つければいいじゃない。生きてる限り、時間があるんだ

槇田 から

伊達 えー

槇田 じゃ、失礼(去る)

伊達 ……答え、か…

さくらがいつの間にかいる。

さくらは入院患者のように見える。

槇田 あの

さくら ?

槇田 どうされました?

さくら ここは?

槇田 わからなくなっちゃったんですか?

さくら (頷く)

槇田 あの、ご案内します

さくら 大丈夫

槇田 ?……本当、ですか?

さくら 大丈夫

榎田 はあ…
加奈子（声） すみません

昔加奈子（以後、加奈子）、現れる。

加奈子 産婦人科って…

榎田 あ、ここは入院病棟です

加奈子 そうなんですか!? えー、めんどくさい。また歩かなきゃ

榎田 あの

加奈子 私、妊娠したみたいで

榎田 診察は受けてないんですか？

加奈子 だって整理来なくて…市販のやつ使ったら、線が出て

榎田 ……そうですか

加奈子 あー、もうどうしようかと思って

榎田 だったら受診しましょう

加奈子 おろせますよね

榎田 ! ……お子さんが、できたんですよ

加奈子 私、今、やる事があるの

榎田 ……でも、授かりもので…

加奈子 いらないし

榎田 ……

加奈子 あの日、やんなきゃ良かった

榎田 あの

加奈子 おろせますよね

榎田 ……

加奈子 このお腹の、おろせますよね

榎田 ……受付にご案内します

榎田、加奈子、去る。

さくら、中絶の話からうずくまり、動かなくなる。

二場三章 いのち

時刻は夜に変わる。

柘野、現れる。

柘野には、さくらが見えていない。

柘野 夜勤って、本当嫌…はあ、しんどいわ…

柘野、座る。

柘野 妊娠って感じしないな

柘野 (ため息) …仕事、楽しんだよね…ほんとにき、あたし、赤ちゃん産まれてくるのに立ち会うの好きなんだよ…でも、人がいなくて…半年も休めないよ。

それにもしものことがあったら…。それで流れてる人、何十人も見てきたからさ

…

さくら そうなの？

柘野 あなたが産まれてた後もこの生活もしていききたい

さくら いいね

柘野 でも、無理ってわかってる、わかりきってる

さくら どうして？

柘野 できる人もいるけど、あたしは駄目。こだわりたいもの。…赤ちゃんが好きでこの仕事に就いたのにね…自分の子で迷うなんて、情けない

さくら ねえ

柘野 ……

さくら ねえ 適当なこと言って、やり過ぎしたくない

さくら ねえ

柘野 ミスはできないのよ

さくら ねえ

柘野 あたしが何とかしなきゃ

さくら ねえ

柘野 こんなんじゃ…何でできちゃったのよ

さくら 愛の子だよ

柘野 子どもが産めなくて、産んでも死んで…いっぱいいたそんな人たちが

さくら うん

柘野 処置で仕方なく子宮も…嫌になるくらい見てきた。でも

さくら 素敵なんだよね

柘野 うん…でも…

さくら うん？

柘野 (ため息)

さくら ねえ

柘野 こんなことで…ああ、何とかしなきゃ

さくら ねえ

柘野 ……やっぱり…

柘野 ……

柘野、うなだれる。

さくら、去る。

伊達、現れる。

伊達 柘野さん

……

柘野さん、大丈夫ですか？

！ ああ、伊達先生

夜勤止めればいいのに

人手不足ですから

伊達 どうするんですか？

柘野 そうですね

伊達 産むのなら、そろそろ言わないと

柘野 わかってます

伊達 ですよ

柘野 ええ

伊達 でも、どうするんです、本当に

……

柘野さんに相談してみたら

え!? 柘野に

伊達 今日悩んでましたけど

柘野 あいつは考え過ぎですから、余計なことばかり

伊達 でも、良いと思うな

柘野 先生はいいですよ、そんなに一緒にいないでしょ

……

柘野と話すと疲れますよ、本当に

伊達 それだけ想ってくれてるってことでしょ

柘野 想いがあってもね

伊達 押し付けは良くないけど、その辺のバランスは

柘野 経験よ

伊達 ええ

柘野 経験ないからなく、あいつ

伊達 柘野さんの事もその一つに

柘野 先生!

伊達 まあまあ落ち着いて、身体に悪いから

柘野 わざとでしょ

伊達 ええ

柘野 この

伊達 しー。一応、夜の病院ですから

……

柘野 ね。それがいいですよ

伊達 柘野か……

伊達
ええ

ピッチが鳴る。

杣野
あ、戻らないと
伊達
うーん、我々には夜はありませんね
杣野
楽しんでるくせに
伊達
ええ

杣野、伊達、去る。

二場四章 悲しみと、

場面が変わる。

マンションの一室、川瀬家。
あの日から数日後。
夕暮れで、空が赤く染まり始めている。

亜紀、お腹をさすりながら、電話している。
通話相手は、大地。

亜紀
お義母さん、…何て？
大地
ちゃんと食べてるかって
亜紀
…
大地
心配だから家に行ったらしい
亜紀
え
大地
待ってる時間もったいなかったから、夕飯の準備したとか
嘘
大地
な、スペア渡してて良かっただろ？
亜紀
…
大地
亜紀がしんどいからさ…
亜紀
…
大地
ん？
亜紀
…
大地
亜紀、聞こえてる？

亜紀、電話を切る。

そして、部屋の隅に置かれている段ボール箱を開ける。
その中から出てきたものは、様々な赤ちゃんの洋服。
触っては畳み、触っては畳むを繰り返す。

亜紀、お腹に手をやる。
全ての動作が力ない。

亜紀

！

亜紀、箱の中から手紙を見つける。
確認するように眺め、封を開け、中に入っている手紙を読み始める。

亜紀

亜紀さん、：今日は楽しかったわね：赤ちゃんのお洋服、今、
本当にかわいいのね：私の若い頃とはずいぶん変わったわ……あなたには
頑張ってもらわなくっちゃ：どんどんお腹は大きくなるし：気持ちも好みも
変わるわよ……大地の時にそうだったから：女の幸せは母になることよ……

亜紀、しばらく動かなくなる。

封筒の中から安産祈願のお守りが落ちる。

亜紀

？

亜紀、お守りを拾おうとする。

スマホの着信音。

しばらく着信音が鳴り響くが、亜紀は取らない。

その間、落ちたお守りをじっと見つめる。

どんどん表情が恐れに満ち、その姿は命を失った屍のよう。

音が止む。

亜紀、呼吸を取り戻す。

しばし間。

亜紀、手紙を投げ捨て、泣く。

亜紀 …… 生きてあなたに会いたかった…… 五十分の一の確率であなたに会えないなんて……

△暗転▽

二場五章 大歳の中の孤独①

亜紀、眠り、夢を見る。

薄暗い中、浮かび上がる柎野。

情景が変わる。

あの日の翌日の、病院の中待合。

柎野 川瀬さん

亜紀 …… はい

柎野 すみません

亜紀 ?

柎野 ここではなく、受付で待ってもらっていいですか

亜紀 え

柎野 先に他の患者さんを診ると、伊達先生が言われているので

亜紀 でも、

柎野 後でお呼びしますので……

亜紀 主人は仕事の都合で……

柎野 そうですか……

亜紀 忙しい人なんです

柎野 昨日はお話、一緒に聞かれて良かったと思いますよ

亜紀 ええ……

柎野 手続きは?

亜紀 まだ何も……

柎野 早めがいいと思いますよ

亜紀 ……

柎野 残念なのはわかりますが……

亜紀 でも……

柎野 産婦人科は、生と死が隣り合わせなんです

亜紀 ……

柎野 お気持ちはわかりますが、受け入れてください

亜紀 ……

柎野 仕方なかったことなんです

亜紀 …わかっていきます…
柾野 では、お呼びするまで受付でお待ちください
亜紀 看護師さん
柾野 はい？
亜紀 …ここで待たせてもらえませんか？

間

柾野 順番が来たら、お呼びします

柾野、去る。

亜紀 ……

二場六章 望む望まない

加奈子、現れる。
亜紀の横に座る。

加奈子 ああ、疲れたー
亜紀 大丈夫ですか？
加奈子 着れる服がどんどんダサくなる…そう思いませんか？
亜紀 ……
加奈子 大丈夫です？
亜紀 え
加奈子 お腹、さすっているから
亜紀 …何とも、ないですよ
加奈子 なら、いいけど…
亜紀 ……
加奈子 何か月ですか？
亜紀 ……
加奈子 あのー
？
加奈子 お腹の赤ちゃん。何か月ですか？
亜紀 …え、ああ…七か月です
加奈子 ああ
亜紀 …あなたは？

加奈子 私、四か月みたいで…
亜紀 うれしくないの？
加奈子 だって…産みたくないんだもん
亜紀 ！
加奈子 母親なんてわかんないし…
亜紀 ……
加奈子 私、やりたいことあるし
亜紀 何、やりたいことって？
加奈子 パタンナー
亜紀 ？
加奈子 その人その人に合った服を作る
亜紀 ああ
加奈子 今、就活なんです
亜紀 ……大変、ですね
加奈子 新卒じゃないと取ってもらえないし…経験積まなきゃ…
亜紀 ……
加奈子 ほんとまじった
亜紀 そんな言い方…
加奈子 いっそ、おろしちやえば…
亜紀 ……
加奈子 なーんて。こんな簡単に子どもができるなんて…
榎田（声） 菅さーん
加奈子 あ、呼ばれた

加奈子、去る。

二場七章 大勢の中の孤独②

榎田、現れる。

亜紀 すみません
榎田 どうされました？
亜紀 他に移っていいですか？
榎田 川瀬さん、診察が終わったのでは？
亜紀 ……
榎田 顔色が悪いですよ？
亜紀 ここで待ってくださいと…
榎田 ！すみません、こんな所で待たせるなんて
亜紀 あの

榎田 申し訳ありませんでした
亜紀 …いえ
榎田 あの、確認してきますね
亜紀 すみません
榎田 大丈夫ですよ

榎田、去る。

担架の音。

亜紀 …昨日まで生きてて…私のすべてをわかってたでしょ？ねえ、ねえ、ねえ

赤ちゃんの泣き声。

亜紀 止めて！もう嫌！…いなくなりたいここから…こんな現実なくなればいいのに！
…もし時間が戻るなら…私は、私は、…！

二場八章 夫婦

情景が変わる。

あの日よりも前、亜紀の妊娠がわかってすぐの頃。

川瀬家のマンション。

都（姑）が来た日の夜。

部屋の隅に赤ちゃんの衣類が入った段ボール箱がある。

大地 これ
亜紀 お洋服だって
大地 全部お袋が買ったの？
亜紀 うん…
大地 何？
亜紀 段ボール一箱分だよ
大地 それが？
亜紀 大ちゃん
大地 嬉しいんだろ、孫ができるから
亜紀 でも…
大地 好きにさせとけばいいって

亜紀 ……
大地 すまない
亜紀 いいよ、あれくらい、いつもの事だから
大地 お袋も悪気があってやってるんじゃないんだ
亜紀 わかってるよ
大地 で、この匂いはハンバーグかあ
亜紀 大ちゃんの大好物って
大地 ……俺、もう子どもじゃないんだからさ
亜紀 いいじゃない、嬉しそうだったよ、お義母さん
大地 お袋が良くってもさ
亜紀 好きなんですよ、お義母さんのハンバーグ
大地 嫌いではないけど
亜紀 その言い方止めなよ
大地 何？
亜紀 本当は好きなくせにそうじゃないって
大地 あー、俺、疲れてるよ
亜紀 今、どんな仕事してるの？
大地 え
亜紀 最近帰って来る、遅いし…病院も来てくれないじゃない
大地 まあな
亜紀 これから転勤とかないよね
大地 そういう時期じゃないから
亜紀 でも、今そうなったら、この子が…
大地 大丈夫だって
亜紀 そう？
大地 仕事も大差ないし、問題ないさ
亜紀 だったらいいけど…
大地 亜紀
?
大地 家の鍵なんだけどさ
亜紀 うん
大地 お袋にスベア作って、渡してもいいだろう？
亜紀 え
大地 今後の事を考えて、な
亜紀 私に相談してよ
大地 今、してるよ
亜紀 もう決まった前提で話してる
大地 いいだろう？
亜紀 だから、何でそういう話になるの？
大地 なかなか時間が取れないんだよ
亜紀 大丈夫
大地 でも今さ
亜紀 私、一人でできるから

大地 亜紀
……

スマホの着信音。

大地 ……
亜紀 ……出ないの？
大地 ……

間

大地、電話に出る。

大地 すみません。ちょっと電話が取れなかったもので…

亜紀、立ち、窓の方を見る。

大地、電話を切る。

大地 亜紀。…明日、会社に行くことになった
亜紀 何で？
大地 急に取引先と会議が決まったらしくって…
亜紀 午後からの検診は？
大地 悪い、一人で行ってくれないか
亜紀 ……
大地 お袋についてきてもらおうか？
亜紀 いい
大地 ……
亜紀 ……一人で行く
大地 亜紀
大地 ……
大地 ……

大地、去る。

亜紀
！

亜紀、お腹を押さえ、座る。

亜紀　私と一緒に泣いてくれるんだね…信じてるんだよ…でも、うまくいかないの…どうしたらいいか、もうわからない。優しくしたいのにできないの…ねえ…ごめんね…

二場九章　トワイライトシンドローム

その亜紀を取り囲むように、伊達、柾野、加奈子が現れる。

亜紀　何？

加奈子　本当不便だよねー

柾野　初産ですから

亜紀　何？

伊達　確率は五十分の一

柾野　川瀬さん、元気に産みたかったですよ

加奈子　母親になんて

亜紀　何なの

伊達　そのままにしておけないんです

加奈子　やりたいこと、できなくなるし

柾野　あなただけじゃないんですよ

亜紀　どうして

加奈子　ほんと、まづった

柾野　ご縁がなかったただけですって

亜紀　どうして！

柾野　先生がおっしゃってます

伊達　残念ながら、あなたには生きてる赤ちゃんを産む資格はないんだ

亜紀　！

加奈子　あなたが悪いんじゃないの？

伊達　前へ進みましよう

柾野　まだ若いんだから

伊達　考え方を変えてみてください。これは予行練習だと

柾野　次がありますって

加奈子　子どもなんていらぬ

柾野　川瀬さん、早くお母さんになれるといいですね

伊達　人生で起こることには全て意味があるんです

柾野　仕方がなかったことなんです

加奈子　本当はいらないでしょ？

亜紀、立ち上がる。

亜紀　　そんなの、わかってるわよ！…私だって、お母さんになりたい、でも、…
ごめんね…ごめん…私、あなたを…あなたを

大地、現れる。

亜紀　　大ちゃん！

大地　　俺は君の力にはなれない

亜紀　　大ちゃん？

大地　　今は仕事に専念したい

亜紀　　何言ってるの？

大地　　亜紀

亜紀　　何？

大地　　君は母親には相応しくない

亜紀　　！

大地　　俺たちの子ども…

亜紀　　私も産みたかったよ

柘野　　生と死が隣り合わせなのに

伊達　　命の価値がわかってない

亜紀　　そんなことない！

加奈子　　私と同じ

伊達・柘野・加奈子・大地

その子は、その子だけなのに

取り囲んでいる人々は、亜紀に覆い被さる。

暗転

二場十章　さくら

さくら　　大丈夫？

明転

さくら　　亜紀さん、大丈夫？

亜紀 え…誰…
さくら 暗いね…どうしたの？
亜紀 ここは？
さくら 病院？
亜紀 え？私…
さくら 寝てたよ
亜紀 ……
さくら 寝るって気持ちいいよね
亜紀 ねえ、…ちよつと
さくら 好きだな
亜紀 ねえ

さくら、突然、うづくまる。

亜紀 ね、どうしたの？大丈夫？
さくら ははは
亜紀 ……
さくら びっくりした？
亜紀 ええ…でも、本当に大丈夫？
さくら ？
亜紀 病気なんでしょ？
さくら 何？
亜紀 だって
さくら ああ
亜紀 あああって…
さくら え!!
亜紀 そんなに驚かなくても
さくら そうなの？
亜紀 (頷く)
さくら おっかしいなー
亜紀 おかしい

亜紀、笑うが次第に泣く。

さくら どこが痛いのか？
亜紀 ううん
さくら うっそだー
亜紀 本当よ
さくら 痛いから泣くんではよ？
亜紀 違うよ

さくら そうなの
亜紀 そう
さくら おもしろいね
亜紀 そうだね
さくら 亜紀さん
亜紀 ?
さくら どうして暗い所にいたの
え?
さくら 暗い所にいたでしょ?
亜紀 暗い所?
さくら 暗い所が好きなの?
亜紀 そんなこと
さくら じゃあ、どうして?
亜紀 …うるさいな
さくら うるさいの?
亜紀 うるさい

さくら、大声で叫び出す。

亜紀 ちよ、ちょっと止めて、止めなさい
さくら ?
亜紀 そんなに大声出したら駄目じゃない
さくら だって
亜紀 あなたは何でここにいるの?
さくら 何でだろ?
亜紀 覚えてないの?
さくら ねえ、約束してくれる?
亜紀 ねえ?
さくら いろんなものに出会ってね
亜紀 ねえ?
さくら いろんなことを見たり、聞いたり
ねえ?
亜紀 いろんな人に会って
さくら ねえ?
亜紀 いろんな気持ちを知って
さくら ねえ?
亜紀 傷ついたりしても
さくら ねえ?
亜紀 ねえ?
さくら それって、いいんだよ
え
さくら それっていいんだよ

亜紀 私は…
さくら 嫌？
亜紀 もう…たくさん
さくら ブー
亜紀 何で？
さくら ブー
亜紀 嫌なんだよ！
さくら ブー？
亜紀 大人になれば、なるほど…
さくら なるほど
亜紀 わかるの？
さくら なるほど？
亜紀 もう！

亜紀、笑い出す。

さくら 忘れないでね
亜紀 え？
さくら ほんのちよつとでいいから…お願い
亜紀 何のこと？
さくら かくれんぼしようよ
亜紀 急だな
さくら 一回やってみたかったんだよね
亜紀 え
さくら 一人だとできないの
亜紀 まあね
さくら 一回だけ
亜紀 え
さくら お願い！
亜紀 …
さくら ね。目（目隠しのポーズ）
亜紀 うん…

二人、かくれんぼを始める。

亜紀 もういいかい？
さくら まだだよ
亜紀 もういいかい？
さくら まだまだ
亜紀 もういいかい？…

さくら　　もうちょっと一緒にいたら良かった

さくら、去る。

二場十一章 思い出

大地、現れる。

亜紀　　…さくら？…さくら！

大地　　亜紀

亜紀　　え？

大地　　大丈夫か？

亜紀　　さくら、は？

大地　　亜紀…

亜紀　　大ちゃん、お仕事は？

大地　　うん

亜紀　　大丈夫なの？

大地　　ああ

亜紀　　ありがとう

亜紀、大地を抱きしめる。

大地　　亜紀、これ（写真を手渡す）

亜紀　　あ

大地　　覚えてるか？病院の横の公園で撮ったやつ

亜紀　　…

大地　　お腹が大きくなった記念に

亜紀　　うん…

大地　　この時は三人だったのにな

亜紀　　…

大地　　あの子の火葬から、まだ一週間経ってないもんな

亜紀　　…

大地　　辛かったよな…楽しみにしてたもんな…本当にさ、まだ

亜紀　　止めて。聞きたくない

大地　　亜紀

亜紀　　生きていたんだよ

大地　　亜紀

亜紀　　さっきまで私と

亜紀 いいの？
大地 何で？
亜紀 私、赤ちゃん産めないかも…
大地 治療すれば大丈夫だって言われただろう？
亜紀 でも怖いよ
大地 俺がいるよ
亜紀 ……
大地 君を守らなきゃって…言い訳だよな
亜紀 ……
大地 ごめんな、亜紀
亜紀 ……
大地 忘れないよね
大地 ああ。俺たちの子どもだから
亜紀 うん

二人、寄り添う。

三場 これから

二年後の同じ季節。例年より暖かい分、桜が五分咲きで咲いている。

加奈子、電話をしながら現れる。

加奈子 そうですか…もうしゃべるようになったんですねー。え？いえ、会いには…
私も仕事頑張なきゃだし…それにもう山下さんちの子だから…手紙で十分です。
ありがとうございます

加奈子、電話を切る。

加奈子 桜かあー…もうひと踏ん張り

加奈子、去る。

榎田、電話をしながら現れる。
榎田の雰囲気は一場とは違い、逞しくなっている。

通話相手は、柘野。
舞台脇に柘野が現れる。

柘野　ね、聞いている？

榎田　…はい、復職の事ですよ

柘野　それもあるけど…あんなにお礼が言いたくなくて

榎田　え？

柘野　あの時、あなたにいろいろ聞いてもらってさ、考え直したっていうか…

榎田　…

柘野　逃げるの止めようって、ちゃんと向き合おうって、そう思えたのよ

榎田　柘野さん

柘野　だから、ね…

榎田　いえ、あの時は私の方こそ、いろいろ言ってしまった…

柘野　最後に、もう一つ

榎田　今度は何ですか？

柘野　子ども連れて、会いに行くから

榎田　はい？

柘野　親子の良さを見せつけに…まづい!?

榎田　？

柘野　咲良（サクラ）起きた。じゃ、榎田、また今度

一方的に通話を切られて、怪訝な表情になる榎田。

風が吹き、間の間にある花びらが目の前を通り過ぎる。

桜に目を向ける。

榎田の中で、この二年間の仕事に対する思いが膨らんでいく。

しばしの間。

榎田　…もう咲いている。今年は温かいからな…あれからもう二年かあ…

…仕事…辞めようかな…

亜紀、現れる。

亜紀、榎田と同じ様に桜に目をやり、立ち止まる。

榎田　あ

亜紀　？

榎田　あの、川瀬さん、ですよ

亜紀　ええ…

槇田 あの、私、朝日山病院の産婦人科で看護師をやっている槇田と言います
……
槇田 二年前、入院されてた時、担当してんですが……
……
槇田 覚えてません……よね
亜紀 あ、ああ、あの時の……以前はお世話になりました……でも、随分イメージが
変わられましたね
槇田 ええ。もう二年も勤務しましたからね、なんか遅しくなってちゃって……
亜紀 今の方がお似合いですよ
槇田 あの。あの時は、すみませんでした
……
……
槇田 本当にすみませんでした……
亜紀 いいんです、いいんです、もう

間

亜紀 今、思い出しても、あの時は……周りの人たちにも腹が立ちましたし
……
槇田 ……私は駄目な母親だからって……ノイローゼみたいな時もあったんです。
けど……夢を見たんです
槇田 夢？
亜紀 ええ
……
槇田 そのおかげで強くなってるんですよ、私
なら良かった
？
槇田 いや……私、……その
亜紀 ありがとうございます
？
槇田 そう思ってくださいるだけで……
……
槇田 五十分の一……
槇田 時々、逃げ出したいくなるんです。……理不尽なことが、あまりにも多くって
亜紀 ……私も……どうして私なんだって、他の、誰かの子なら良かったのに……思ってたんで
す、当時
……
槇田 でもね、それだと誰も幸せになれない。他の誰かが私と同じように悲しむことにな
る
……

二人、笑い合う。そして桜の木を眺める。

亜紀　　この桜は綺麗…

榎田　　病室の方からだど、もつと綺麗に見えますよ

亜紀　　そうなんですか？

榎田　　ええ

亜紀　　…

榎田　　次は、きっと大丈夫ですよ。元気な赤ちゃんに会えますよ

亜紀　　ありがとうございます

榎田　　私もいますし

亜紀　　…ありがとうございます

榎田　　私も会いたいですから

亜紀　　あの、榎田さん

榎田　　はい

亜紀　　私、あの子に名前を付けてたんですよ

榎田　　名前ですか？

亜紀　　ヒント。今、見えます

榎田　　？…桜の木？

亜紀　　さくら。あの子の名前は、さくら

榎田　　…

綺麗だから…散っても、またその季節をみんなが思い出す…

…。私も忘れませんから、さくらちゃんのこと

榎田さん

さ、私も頑張らないと

榎田、去る。

木が風に揺られ、そよぐ。

亜紀が心の中で、さくらがうれしそうに笑っている。

亜紀

さくら

亜紀、桜を見続けている。

静かに明かりが落ちていく、暗転

